

令和4年度 北海道社会教育主事会協議会研究テーマに係る実践報告書

オホーツク 管内	置戸町
<p>●実践の概要</p> <p>ふるさと少年クラブ</p> <p>目的：身近な自然・産業体験を通して地域を知る 異年齢の人(別学年・地域住民)と交流し、社会性、自主性を培う</p> <p>対象：小学校4～6年生</p> <p>期間：通年</p>	
<p>●実践に至るまでの経緯・準備したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策用品の価格が高騰(ラフティング) ・外出自粛でストレスが溜まり、落ち着かない子どもたちが増えていた(星空観察) ・食に関する事業の中止が相次ぐ(うどん作り) ・おうち時間の過ごし方(かるた大会、eスポーツ大会) ・大きい町イベントの中止(火力だすべえ祭、Winter Festival) <p>【準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の特技さがし ・公民館独自の感染対策を考える 	
<p>●実践で難しいと思ったこと・困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主導にしないこと、主体は子どもたち ・保護者への協力・理解を求めること ・登録制講座のため、子ども全員への働きかけが困難 ・講師が「やらされてる感」を抱かないようにすること 	
<p>●改善のアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に子どもたちで「やりたいこと」「やってみたいこと」を話し合う ・参加者、講師、事務局みんなが楽しめるタイムスケジュール構成 (フリーな時間を設ける、美味しいものが食べられる など) 	
<p>●実践での行政職員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者と講師をつなぐ ・保護者との連携強化 ・地域住民の特技さがし 	<p>●実践後の対象の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなアイデアを提案 ・事務局側の子どもへの認識変容 ⇒「子どもは遊びの天才」だった
<p>●実践から導き出された社会教育行政職員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人をつなぐ ・全体的なフォロー ・主体性の尊重 ・学習環境づくり 	